



ニュース



勉強会の報告

北総地域合同地域共生社会推進に係る勉強会

テーマ：地域共生社会～その人をど真ん中に

より幸せを応援するために～



日時：2024年8月6日（月）

会場：東金市ふれあいセンター



「地域共生社会」とは、地域住民や地域の多様な主体が、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会を言います。今年度は、基調講演に「厚生労働省社会援護局地域福祉課地域共生社会推進室支援推進官である犬丸智則様」をお招きし「なぜ、地域共生社会を目指すのか」いま起こっていること、包括的支援や地域づくりについて具体事例を用い説明をいただきました。

また指定発言に行政等から支援会議の実施やまちづくりについて説明をいただきました。質疑応答も活発にかわされ、行政の策定する地域福祉計画と社会福祉協議会の策定する地域活動計画のことや、高齢者福祉部門の要である、地域包括支援センターから8050問題等新しく何かを作るという方向が目が行ってしまうが、目の前の人をどう助けるか、どことつながるかを考えていくことが基本と感じたとお話もありました。

意見交換では、北総地域の広域ならでは多分野によるグループワークで、講義の感想や明日から自分・自事業での取り組みについて夢のある意見が共有されました。

最後の総評においても、官民共同で「一緒に考えていく・一緒に動いていく」ことが地域づくりの第1歩。丁寧な対話を積み重ねて行くことをしながら、互いにエンパワメントできる関係性が共生社会である等ご助言をいただきました。



イベントの告知



千葉県独自の事業である中核地域生活支援センターは、子ども、障害者、高齢者等、誰もがありのままに、その人らしく地域で暮らすことができる地域社会を実現するため創設された相談機関です。制度の狭間や様々な問題を抱えて困っている方、いろいろな機関、窓口からの相談に対応しています。

今年も、千葉県中核地域生活支援センター大会を下記の日程で開催します。今年のテーマは、「原点を語る、未来を描く」として、すべての人が安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けて考えて行きます。関係機関の方でご興味のある方は、ぜひ、ご参加ください。

開催日時 9月9日（月）13時から17時
開催場所 千葉県社会福祉センター2階研修室（千葉市中央区千葉港4-5）
お問合せ先 中核地域生活支援センターin 2024 事務局
中核地域生活支援センターひだまり
電話 0470-28-5667 FAX 0470-28-5668

20周年記念
千葉県中核地域生活支援センター大会 in 2024
原点を語る 未来を描く

(1) 挨拶 熊谷 俊人 千葉県知事
(2) 開会 健康福祉千葉方式を振り返る
～誰もがありのままにその人らしく暮らすために～
司会 関子 元千葉県知事
基調 犬丸 智則 厚生労働省社会援護局地域福祉課地域共生社会推進室支援推進官
講演 伊藤 浩二 千葉県中央地区障害者支援センター 支援部長
横山 正博 千葉県身体障害者福祉事業団 理事長
コトバ 中野 野那 和弘 福寿学園大学 副学長
(3) 2024年千葉県中核地域生活支援センター事業 実績報告
(4) インタビュースタリション
「私たちが大事にしたいこと、これからの10年を考える」
アンソニー・ロビンソン 氏 千葉県中核地域生活支援センター 相談員
司会 関子 浩二 千葉県中央地区障害者支援センター 支援部長
司 及川 昌 社会福祉法人柳屋福祉会 柳屋 孝典 代表理事
司 佐藤 雅也 柳屋 孝典 代表理事
司 高木 孝孝 中核地域生活支援センター 長野 CGCセンター長

日 時 2024年9月9日（月）
13:00～17:00（受付開始は12:30）
場 所 千葉県社会福祉センター2階研修室 千葉県中央区千葉港4-5
（千葉県立2024年大会場）
参加料：無料
※ 懇話会 千葉県中核地域生活支援センター 連絡協議会
※ 会場に駐車場はありませんので、公共交通機関等でお越しください。
※ ご参加にあたって配慮が必要な方はお知らせください。

申込申し込み方法（9/20日までに申込センター コード申し込みください）
申込センター申し込み方法は申込センターのホームページをご覧ください。
2024年、千葉県中核地域生活支援センターは20周年を迎えます。この記念すべき年に、千葉県には14の中核地域生活支援センターがあり、それぞれが地域で暮らす人々の暮らしを支えています。中核地域生活支援センターは、誰もが安心して暮らすことのできる地域社会の実現に向けて、様々な課題に取り組んでいます。この大会は、関係機関の皆様と連携し、互いに学びあう機会を設けたいと考えています。ぜひ、ご参加ください。

申込はこちら→



発行元：中核地域生活支援センターさんネット【千葉県委託事業】

〒289-1345 千葉県山武市津辺 252-1

電話 0475-77-7531

FAX 0475-77-7538

E-mail sun.net@npo-link.jp

ホームページ <https://npo-link.jp/>

編集担当：中田 発行責任者：吉井



【中核地域生活支援センターの事業推進について】

振り返れば、私が中核センターに携わってから15年、当初は介護保険・障害福祉・児童・教育分野で、多分野のことを学ぶ機会はとても少なく、一緒にテーブルに着いて複合的な課題を抱えた家庭のケース検討を行うこともあまりありませんでした。しかし、現在では各分野の支援機関同士が他分野の制度や現状を学び合い、連携を行うことが特別ではなく、「普通のこと」という認識になっていると感じています。例えば、ヤングケアラーについての相談や研修依頼も増えていますが、一因には、介護保険の居宅介護支援事業にかかる特定事業所加算の要件の一つとして、ヤングケアラーや生活困窮者支援の事例検討や研修などへの参加が必須となっていることも大きな影響だと考えられます。

当センターとしては、開設当初から「多分野・多職種連携」の推進を通じて、山武圏域連絡調整会議や地域づくり等活動を行っています。

その一つとして、5月30日に実施した山武圏域連絡調整会議では、「多分野多職種連携のための情報アップデート～各領域における法改正と生活者への影響～」と題して、「高齢・障がい・子ども若者・女性・医療法等・成年後見・労働雇用」の最新情報を知る・理解することを目的に、リレートーク方式で多分野の参加者に伝えてもらう機会を作りました。各制度の変更や改訂・追加がどの分野でも行われていますが、そのスピードはとても速く、各専門領域単位でも把握することが難しくなっていますが、できるだけ「知り合える」機会を増やし、情報をシェアする仕組みに取り組んでいきたいと思っています。
(センター長 吉井 稔)

【中核センター事業にかける「思い」を語ってみた】

この仕事をして感じたことは、世の中には、困っていることを抱えている方がたくさんいらっしゃるということです。普通に生活されているように見えても、人間関係の悩み、家族の悩み、仕事の悩み、お金の悩み、病気の悩み、介護・障害に関わる悩みなど、様々な悩みを抱えながら頑張っている生活しています。一つ言えることは、今、自分が順調に生活できていても、そういう問題を抱える可能性があるということです。他人事ではなく、自分も抱えるかもしれない問題として、相談者と一緒に考えていきたいと思っています。(泉)

中核センター事業にかける思いを改めて考えた時、自分自身が福祉の道に入った理由を思い出してみました。自分は、「人」と関わることが好きで、この道に入ったのだと記憶しています。

中核の仕事を通して、人や様々な機関ともかかわることになりますが、そこには必ず、「人と人との関係性」が生じます。地域で生活している方々の困りごとを解決に向けて考えていき、支援者としてできること一つ一つ進めていく事で、そこに信頼関係が生まれます。その相談を解決したあと、またその方がその友人を連れてきて、「ここに相談に乗ってもらったら解決したんだ」といって人から人へひろがっていく、そんな中核センターとしての役割や身近な地域の相談機関の相談員として日々、頑張っています。(小川)

さて、次回は誰が語ってくれるのかな。乞うご期待。



連絡調整会議 部会活動

● 高齢者部会 ●

第1回山武圏域高齢者部会・研修会の報告

6月17日(月) 14:00~16:00 山武市役所車庫等会議室

「介護人材定着への取り組み～現状と課題、そして対策～」

講師：千葉県健康福祉指導課介護人材確保対策室

当部会は令和6年度の年間テーマを「人財」として、高齢者福祉業界を取りまく、人材不足の対応について、どのような取り組みができるかを考えていくことになりました。

研修会では、千葉県健康福祉指導課介護人材確保対策室の伊藤様にご登壇いただき、千葉県の現状と介護人材確保の様々な取り組みについて講義をいただき、その後にグループワークで、参加者の職場が抱える課題と、取り組みの工夫について意見交換を行いました。

どれだけ、介護にかかわる仕事に興味を持ってもらい、介護の仕事の魅力を伝えられるか、働いている方の悩みや課題に寄り添い、働きやすい職場環境を整えることへの取り組みが紹介され、そのことで、人材流出を止め、確保につながる事が会場で共有され、意義のある研修となりました。(泉)

● 包括支援部会 ●

「暮らしの法律相談会」を今年度も山武事務所において2回の開催を予定しています。

弁護士と中核センターとリンクサポートスタッフが、生活をしていく上でのさまざまな悩みや不安を、安心に変えるお手伝いをします。支援機関等を通じて支援者とともに相談を受けることも可能です。

支援者支援の観点から、行政や相談支援専門機関の担当者等からの相談も積極的に対応していきます。

第1回は8月29日(木)に、第2回は12月17日(火)に開催します。

(吉井)



● 子ども・若者部会 ●

子ども若者部会と研修会の報告

7月25日(木) 14:30~16:30 山武市車庫棟会議室

ノーヒットゾーン～医療現場から体罰防止を考える～

講師：亀田ファミリークリニック館山 吉羽 史織医師

高島 育医師



今年度第1回子ども若者部会及び研修会を開催しました。

暴力の背景や法整備、子どもの心身の発達に及ぼす影響等について医療現場からご講義をいただき、参加された皆様とグループワークを行い、「自分自身の暴力等の体験の共有」「ノーヒットゾーンの活用の可能性」について話し合いました。

参加された方より、「ノーヒットゾーン」は、子どもたちにとって安心・安全を確保し、支援していくツールとして参考になったと感想をいただきました。「ノーヒットゾーン」について、初めて聞いたという方も多かったかと思いますが、安心安全の環境づくりについても考えていくきっかけとなりました。

～今後の予定～

10月26日(月) 18時30分~20時：子育てミニ集会

(会場：さんネット)



(赤堀)

出張相談会・地域の拠り所としての活動



～地域づくり活動～近隣住民や地域と顔の見える関係を作っていくことを目標に～

赤い羽根共同募金を活用した「校内居場所づくり事業」の取り組み報告

『@県立松尾高校（MTO カフェ）』

在校生が 300 名を超える松尾高校では、地域の福祉事業所や生活協同組合等と協力して、この事業に取り組んでいます。地域の福祉事業所等や学校関係者等による実行委員会体制をとり、事前打ち合わせでは、「生徒の楽しむ姿、美味しいそうに食べる顔」を思い浮かべながら企画する醍醐味を感じています。当日の一番人気は社会福祉法人翡翠会の提供する豚丼！！夏は、食べ放題のかき氷等。

また、フリースペース（休み処）では、生徒同士のおしゃべりや人生の先輩の「おせっかい講和」などを行い、年齢や性別問わず楽しめる企画となるよう努めています。（なお本企画は年 2 回実施予定です。）



『@県立九十九里高校』

今年度から本格始動した九十九里高校でのこの事業は、空き教室を利用して飲食の提供やフードパントリー、ゲームコーナーを地域の福祉団体や大学等と協力し実施しています。

生徒たちは教室の中で流れる流行りの音楽に合わせて歌を口ずさんだり、ゲームで盛り上がったりと楽しんでいる姿が見られていました。その中でもゲームをしながら進路について、ぽつぽつと話をしている生徒もあり、家庭や学校ではない「地域」との関わりが、その生徒一人の背中を押す、そんな役割があるのではと感じました。

この日は、新聞社（読売新聞・千葉日報）の取材がありました。（なお本企画は年 3 回実施予定です。）



赤い羽根共同募金

●横芝光町ゲートキーパー養成講座のお知らせ●

9月10日～9月16日は自殺予防週間です。

自殺対策を推進するためには、自殺について、誤解や偏見をなくし、正しい知識を普及啓発することが重要です。国、地方公共団体、関係団体及び民間団体等が連携して「いのち支える自殺対策」という理念を前面に打ち出して啓発活動を推進し、あわせて、啓発事業によって援助を求めるに至った悩みを抱えた人が必要な支援を受けられるよう、支援策を重点的に実施することとされています。

横芝光町においては、9月の3日間（9月10日・20日・28日）、町民及び在勤者等を対象にゲートキーパー養成講座を開催いたします。

また、5月15日には体験型講座としてノルディックウォークを開催するなど、心身両面からの取り組みを行っています。（次回は10月30日）



申込 QR コード